



浜松市博物館情報



Hamamatsu City History Museum News

2025.2.15

No.366

織田利三郎と一坪農業

「一坪農業」という言葉を聞いたことはあるでしょうか。これは尋常小学校および高等小学校における実践活動の一つで、児童を農業に取り組ませ、その生産品の内、優秀なものを表彰し、農業経営を教育することを企図したものです。

この一坪農業を提唱したのは、浜松の田町にある霞屋（現カスミヤ）の織田利三郎です。織田利三郎は霞屋の経営のかたわら、浜松町農会長や静岡県生姜系瓜蕃椒落花生同業組合長等の職を務めていました。

また、織田利三郎は農商務省の嘱託により、欧米や中国・インドを視察し、栽培技術の改良の必要性を感じます。そのような中で小学校の児童に農業について教育することを思い立ちます。

一坪農業はこのような背景のもと始まります。一坪（約三・三平方メートル）という広さについては、当初一畝（約二アール）



現在のカスミヤ
（浜松市中央区田町）

ル）等、より広い面積で試行錯誤して、児童が栽培するのに広すぎない適切な面積として到達したものです。

次に一坪農業の実践がどのように行われていたか紹介します。まず、対象となった学年は尋常小学校五年から高等小学校三年まででした。そして、栽培は児童の家の敷地や学校の敷地で行われていました。苗や種子は学校から生徒に与えられました。

この一坪農業による栽培の生産品は、学校に集められ、品評会が開かれました。品評会では、一級から四級まで等級を定めて表彰が行われました。

そして、生産品については、品評会が行われただけではなく、その販売も行われていました。販売で得られた収益の半分は児童に還元され、残りの半分は品評会開催等の経費や学校財産にあてられました。

現在の浜松市域の学校の内、一坪農業が実践されていた例を挙げると、与進尋常高等小学校、芳川高等小学校、雄踏尋常高等小学校、積志尋常高等小学校、庄内高等小学校となります。さらに市域外でも、全国規模で実践されていました。

与進尋常高等小学校を例にして、もう少し詳細について紹介します。明治四十年（一九〇七）に、大根・白菜・^{だいさい}体菜の種子を購入して、尋常科第五学年以上の児童に配り、自宅の畑の一部を使って栽培をさせています。児童は野菜の発育を楽しんで、日曜日に施肥等の作業をしていました。保護者もこれを歓迎しました。

明治四十一年（一九〇八）二月には、品評会が開かれ、一四五〇点の生産品が出品されました。

明治四十二年（一九〇九）四月には、輸出品として栽培されていた落花生の種子が尋常科第五学年以上の児童に配られ、四二五点が第二回東洋輸出品共進会に出品されました。

与進尋常高等小学校が一坪農業に取り組むようになったのは、織田利三郎による熱心な勧誘があったためです。他校の事例でも織田利三郎による働きかけがありました。一坪農業は、織田利三郎による働きかけと各校の教育内容とが結びついて展開をしていき、実施内容や方法は、各校の状況により異なる部分もありました。

一坪農業という農業教育の運動が浜松出身の人物によって推進されていたことに注目していただければと思います。

【参考】「実業補習学校二関スル取調書」（文部省、一九一〇）

【博物館所蔵資料の紹介】 絵はがき 浜松名勝 浜松新停車場



これは2代目の浜松駅舎の写真を印刷した絵はがきです。「浜松新停車場」とあることから、駅舎が完成してからあまり時を隔てないころに作られたと考えられます。

また、絵はがきには「全国産業博覧会」の記念スタンプが押されています。これは昭和6年(1931)に浜松で行われた全国産業博覧会のことで、このときに販売されていた等何らかの理由で記念スタンプが押されたと考えられます。したがって、絵はがきが現在の状態になったのは昭和6年以降と考えられます。

この絵はがきの浜松駅舎は大正15年(1926)に完成したもので、昭和20年(1945)に戦災で焼失してしまいました。駅舎の窓の一部は開いており、回転して開く窓もありました。駅舎の入口には屋根が作られています。その下にいる男性は和服を着ているように見えます。この絵はがきは当時の浜松のまちのようすを知る手がかりとなる資料です。



▲部分拡大

催し物のご案内

★小展示「干支展 巳」

開催中～3月9日(日)

令和7年の干支である「巳」(へび)にちなんだ資料を豊橋市自然史博物館との相互貸借で展示します

★小展示「道具たちの100年」

開催中～3月9日(日)

小学校社会科「道具とくらしのうつりかわり」に合わせて、くらしの道具の変遷を紹介します

★小展示「佐久間町の片桐鍛冶店の道具」

3月22日(土)～5月25日(日)

★常設展示「近世～近現代」入れ替え

3月15日(土)～

※3月11日(火)～3月14日(金)は臨時休館

★館長講座「伊場遺跡の赤いよろいを語る」

3月1日(土) 10:00～12:00 要申込

★昔のくらし体験館

2月22日(土)・2月23日(日)

・昔の道具体験、ガイドツアー等を実施します

★春休み体験館

3月22日(土)～3月30日(日)

※24日(月)は休館日

・新常設展示ガイドツアー(3/22)

・浜松の城下町解説(3/22)

・弥生時代の伊場遺跡ギャリートク(3/23)

・伊場遺跡現地見学ツアー(3/23)

・縄文風編みかごづくり(3/25)

※当日整理券配布

・蜷塚遺跡ガイドツアー(3/26)

・春色まが玉づくり(3/26～28)

・古代のアクセサリーづくり(3/29、30)

※事前予約制(3/10締め切り)

・体験ガイド(3/27～30)

・缶バッチ、缶ガネットづくり(期間中毎日)

・クイズラリー(期間中毎日)

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

3月8日(土)・4月12日(土)

14:00から30分程度

会場 旧高山家住宅(蜷塚公園内)

参加無料 申込不要



※各事業の詳細は、HPやSNSでご確認ください。

※イベントは、変更、中止になる場合があります。

左から
ホームページ
X(旧ツイッター)
Instagram



浜松市博物館 開館時間：9時～17時

〒432-8018 浜松市中央区蜷塚四丁目22番1号

Eメール：hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

2月～4月の休館日：2/3,10,12,17,25,26 3/3,10,11,12,13,14,17,21,24,31 4/7,14,21,23,28,30

電話：053-456-2208

FAX：053-456-2275

HP：https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/